

富士川町小中学校のあり方懇話会での意見

1 児童生徒数に関すること

(少人数であることについて)

- ・部活動の選択肢が限られる。
- ・クラス替えができない。
- ・いじめや友達関係で揉めたときの逃げ場がない。
- ・きめ細かい教育ができる。
- ・現在の鰯沢小学校の1年生が10人でその子たちが中学校に上がったときのことを考えると、学園祭や勉強等の負担を考えると統合は致し方ないのではないか。
- ・希望する部活動がないため、鰯沢から増中に通っている子もいる。
- ・最低1学年40人くらいはいないと寂しい。
- ・競争することも大切ではないか。
- ・クラブ活動で人数が集まらず思うように活動できないクラブがある。

(その他)

- ・示されている児童生徒数は、住民票から推測される人数であるため、町内に住み続けてもらい、町外からこの町に来てもらえるよう、この町が住みやすいことを子育て世代に働きかける必要がある。
- ・生徒数を増やすために特色ある教育を目指してほしい。指導力のある教師、より専門的な部活動顧問など、エキスパートな教育者がいる学校に通わせたい家庭は多い。

2 通学に関すること

(中学校を統合した場合)

- ・スクールバスが何便も必要となる。
- ・送迎が必要となる保護者が増える。
- ・自転車通学となると危険が増す。

3 学校施設に関すること

- ・中学校校舎の大規模改修と改築の費用を比べ、改築が安いのであれば、大規模改修を見直し、統合するのであればよい。大規模改修のほうが安いのに、新しい校舎を造りたい。しかし予算がないのでは話にならない。根拠があれば誰でも納得する。増穂中は大規模改修が必要だから新しい校舎を建て、鰯沢中も一緒になるのであれば納得する。何の根拠もなく新しい校舎を建てるのでは困る。
- ・増穂中学校の老朽が心配である。

4 小中連携教育に関すること

- ・ 鯉沢小中学校を小中一貫校としたらどうか。町の教育方針により変わるので適正規模で決めることではない。あらゆる可能性を考え、検討してもらいたい。

5 適正規模に関すること

- ・ 中学校を2学級とする根拠はない。南小が少人数教育を希望する児童のための学校であるならば、鯉沢中も少人数教育を希望する生徒のための中学校として存在する理由があると思う。
- ・ 小学校では、少人数教育を希望する児童のために3校を継続配置するのであれば、中学校においても同様のことが言えるのではないか。
- ・ 小規模校のデメリットは示されているが、統合した場合のデメリットも出てくると思う。それが示されていないのは比較しようとしていないのではないか。すでに町は統合に向けて動いているのではないか。
- ・ 1クラスの人数を少なくし、一人一人に教師の手が行き届く丁寧な教育ができるクラス規模にしてもらいたい。
- ・ 統合することで生徒の数が増え、いろんな人との関わりから多くのことが学べることも大切なものと同じように、教師が丁寧に児童生徒と関われるクラス規模も大切だと思う。
- ・ 小さな学校・小さなクラスほど、学習意欲や態度が積極的になり、子どもたちの人格形成・人間的成長に効果的であることが実証されているということを踏まえて検討してもらいたい。
- ・ 日本では1学級当たりの児童生徒数がOECD平均を上回っている現状を考慮して、検討してもらいたい。
- ・ 増穂中と鯉沢中の生徒を案分すれば良いのではないか。

6 適正配置に関すること

- ・ 地域の中での学校のあり方についても検討していただきたい。地域から学校がなくなれば子どもが減少し、高齢化が進む要因となる。
- ・ 小学校については、どのような状況になったときに統合しなければならないのか示してもらいたい。
- ・ 地域から学校がなくなるのはますます活気がなくなるので、できるだけ小学校は残してもらいたい。
- ・ 中学校の統合については、いつかは受け入れなければならないと思われるが、いつどんなときが来たら統合すべきなのか示されていない。これから中学校に通う子どもがいる家庭にはその条件を周知してもらいたい。

- ・小学校については、各家庭で通わせたい規模があるので、現在の配置を継続してもらいたい。
- ・広範囲の富士川町で中学校が一つというのは不便である。
- ・クラス替えをしたい子もいれば、したくない子もいる。多人数教育が良い子もいれば、少人数教育が良い子もいる。鰍沢から増穂中に通いたい子もいれば、増穂から鰍沢中に通いたい子もいる。両校を存続し、校風や部活動の有無により、選択ができるようにすればよい。
- ・県内の高等学校の合併が相次いでいる中、町内中学校が統合することも仕方がない。

7 統合に伴う附帯意見

- ・子どもたちの学びの点では考える必要があるので、将来同じ中学校に通うのであれば、小学校段階で修学旅行や合唱発表会など、交流を深めたらどうか。
- ・統合する際は、子どもたちのメンタル面を配慮し、事前に児童同士の交流などを行うべきではないか。
- ・増穂は平林・眷米、鰍沢は鹿島・十谷・鳥屋も含めてスクールバスを運行してほしい。
- ・建設費がかかるため、増穂中学校に統合することが良い。体育館も新しい。
- ・両校の中間で建て直しを検討するのであれば、増穂商業高校の位置が良いと思う。校舎やグラウンド、水回り等が使える。
- ・新中学校の名称は、増穂の名前が消えるのは淋しいが富士川中学校で良いと思う。
- ・学校名を変えるなら富士川中学校か増穂鰍沢中学校が良いと思う。
- ・学校名に増穂という地域名が消えないようにしてほしい。
- ・小規模校の良さも知っており、存続してほしい気持ちはあるが、統合する場合は子どもたちが混乱しないようにしてもらいたい。
- ・新中学校の位置は、増穂商業跡地を検討したらどうか。
- ・校舎は新しくしてもらいたい。
- ・鰍沢中学校が増穂中学校に統合されてしまうことが心配・不安である。
- ・2学期制について検討してもらいたい。
- ・統合する場合の時期は、中学校2校の生徒数が300人を割る令和7年度辺りが目標年次になるのではないか。

8 その他

- ・中学校では、部活動を統一したらどうか。
- ・小中の9年間、同じ仲間の中で、クラスのメンバーが変わる中で生活することに意義がある。

- ・統合するに当たり、場所はどこになるのか、なるべく早く示すべきではないか。
- ・意見を求めるのであれば、町の小中学校の現状や課題など、文面で各家庭に情報発信してもらいたい。ほとんどの家庭にはこの情報が伝わっていないため、いつ統合してしまうのか、学校がなくなってしまうのか、不安だけが独り歩きすることは避けてもらいたい。
- ・今後、町はどんどん人口が減っていくと思われる。どういう町づくりをし、どういう教育をしていきたいのかわからない。
- ・新しい校舎は、増穂商業跡地になり、現在の増穂中に町の体育館を建設する計画があるのではないかと聞く。本当に子どもたちのことを思っているのか。町政と絡んで子どもたちのためだけにない何かがあるのかというところを明らかにしてほしい。
- ・子どもたちが減っていく中、新しい校舎を建てる必要はないのではないか。今いる中学生を2校で割れば良いのではないか。
- ・一番に子どものことを考えて検討しているのか。ちゃんと真剣に議論しているのか、もう少し資料で見せてほしい。
- ・保育園や幼稚園の保護者から意見を聞いたらよいのではないか。
- ・IV(1)の方針の中で「少人数教育を必要とする児童…」とは、集団生活にそぐわない児童がいると誤解を招くため「少人数教育を希望とする」など、表現を変えてもらいたい。
- ・子供の意見を聞くべき。
- ・富士川町の素晴らしさは、上下のつながり、横のつながりが強いところにある。スポーツ活動、文化活動、ボランティア活動、地域活動など、歴史があり、地元意識が強い町である。その根底にあるのが大增穂という気持ち。その地元愛は、増穂小、増穂中で育まれる。
- ・人数減だから統合という安易な考えであり、お互いの特色、歴史、地元愛を尊重して、当面統合の必要はない。
- ・学校の設置場所についての検討が難しそうである。
- ・路線が引かれているように見える。
- ・両校の現場の教師や生徒は、統合の必要性を感じていないはず。
- ・特徴ある教育をすることで子どもたち自身が将来、富士川町で生活し、学んだことを誇りに、自分のアイデンティティとなるような魅力的な学校づくりをしてもらいたい。
- ・意見を聞き、どのような問題があるのか教育委員会が把握しなければならないのではないか。
- ・小規模にも大規模にも良いところ悪いところがあるが、これを今まで町、教育委員会、学校がどのようにしてきたのか検証し、説明していかなければなら

らないのではないか。

- 保護者は、この方針が決定したもので、町がすでに統合に向けて動いていると思っている。
- 教育委員会が学校現場に行き、保護者に説明する必要があるのではないか。
- 仮にこの方針のとおりになった場合、少なくとも5年くらいのスパンの中で実施していく大きな事業であると思う。
- 統合する場合の、校舎の場所や通学方法等、条件によっては反対する保護者も出てくる。
- 統合するのかどうかの方向性だけを今年度中に決め、その後に場所などを決めていくということをはっきり説明し、理解を求める必要があるのではないか。